



北部教育研修センター

(北部教育研修センター実証実験事業)

センターだより第10号

令和3年1月15日(金)

沖縄県名護市字為又1220-146
北部教育研修センター

発行責任者
センター長 高安美智子

締め括りの三学期

三学期は学年度の締め括りとなる重要な学期です。ところが、新型コロナウイルス感染拡大は予断を許さない状況となっており、感染防止対策は十分な配慮をしながらも不安は拭いできません。それぞれの学校でも、未曾有の出来事に日々試行錯誤しながら努力している様子が伝わってまいります。

当センターの研修もコロナの影響により集合型の研修は減少しましたが、オンライン研修に変更しながら、充実した研修を実施することができました。特に、スーパーティーチャー招聘の研修は、教科研修だけではなく、「生徒指導及び学級経営」「道徳教育」「特別支援教育」「学習指導要領と評価に関する研修」「コミュニティ・スクール 未来の学校づくり」等、学校現場の要望に添って幅広い内容で開催することができて、各校の校内研修や教育委員会との連携を図ることで、どの研修会も貴重な情報が得られ、研修の成果が大いに期待できる内容となりました。

名護市教育委員会との共催で12月21日に開催された中学校英語科研修会は、「新学習指導要領に伴った授業づくりとテスト作成について」の実践報告でした。学習指導要領を深く学び、ゴールの設定を明確にし、目標を生徒にも共有することで教師だけではなく生徒にとっても到達度がイメージできるということで主体的な学びが生徒の成長につながることをより実感できる研修内容でした。校内研修で引き続き学び合いの機会を作っただけだと教師の力量が一段とアップし、質の高い学びが実現できると思います。

紙面の都合上、詳細につきましては是非2020年度報告書や本センターのホームページをご覧くださいと思います。

◆今後の研修予定

実施予定	研修項目	会場
2月2日(火)	管理職マネジメント研修会 日渡円(兵庫教育大学 教授)	北部生涯学習推進センター
2月17日(水)	国頭地区小・中学校校長研究大会 校長会主催	北部生涯学習推進センター
2月実施予定	小学校プログラミング 講師:中里収、佐久本功達、天願健(名桜大学教授)	北部生涯学習推進センター
2月実施予定	アクティブ・ラーニング小学校外国語:玉城本生(名桜大学助教)	奥間小学校
2月実施予定	生徒指導・教育相談研修会 講師:栗原慎二(広島大学教授)	本部中学校
3月25日(木)	新規採用教員研修会(国頭教育事務所共催)	北部生涯学習推進センター

◆ 研修実施状況 (センターだより第9号の続き)

実施	研修項目	参加人数
8/28 (金)	生徒指導・学級経営 子どもがつくる温かな学級づくり 講師:栗原慎二(広島大学大学院教授) 今帰仁中学校校内研修と共催	77
9/10 (木)	オンライン授業づくり研修会「遠隔授業を進めるにあたっての授業づくり」 中里収・佐久本功達・天願健・草野泰宏 上門要(名桜大学教授、准教授)	7
9/18 (金)	「道徳教育」研修会 講師:鈴木健二(愛知教育大学教授)	50
9/24 (木)	小学校算数の示範授業(遠隔授業) 講師:佐藤学(秋田大学教授)	28
11/4 (水)	国頭地区中学校国語科研修会 講師:上江洲朝男 (琉球大学教職センター准教授)	32
11/9 (月)	新学習指導要領「評価に関する研修会」 講師:樺山敏郎(大妻女子大学准教授)	186
11/16 (月)	講演会「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)未来の学校づくり」 木村直人(前文部科学省 初等中等局 参事官/大臣官房会計課長)	164
11/21 (土)	特別支援教育講演会 講師:川上康則 (東京都立矢口特別支援学校主任教諭)	45
12/3 (木)	アクティブ・ラーニング実践報告会 (小学校外国語活動)児童が主体的に学ぶ授業づくりと教材づくりの工夫 講師:岸本瑞恵(屋部小学校フロンティア・ティーチャー)	7
	アクティブ・ラーニング実践報告会 教えて考えさせる授業実践 ～学びのスタンダード～ 講師:伊藝大輔(宜野座中学校教諭)	16
12/21 (月)	中学校英語科研修会(名護市教育委員会共催) 「新学習指導要領に伴った授業づくりとテスト作成について」 講師:中嶋洋一(関西外国語大学教授)	28

2020年度 後期研修報告

I 「スーパーティーチャー教育講演会」 Zoom によるオンライン研修

研修名	「学級経営とPBIS 研修会」
日時	2020年8月28日(金) 15:00~17:00 参加者数 77人
研修の目的	生徒指導上の課題解決についてPBIS(肯定的な行動介入と支援)を行うことによって、適切な行動を強化し、不適切な行動を予防する研修を実施し、学級経営力を高める。
テーマ	「子どものポジティブな行動を強化する」 ～子どもがつくる温かな学級づくり・学校づくり～ 講義と演習
講師名	栗原 慎二「広島大学大学院教授 / 学校教育開発研究所・代表理事」
会場・場所	今帰仁中学校 職員室 or 各学校 (Zoom によるオンライン研修会)
研修内容	<p>1 日本の子ども達の現状</p> <p>2 包括的プログラムの普及定着</p> <p>3 発達と欲求の関係・包括的プログラムという考え方</p> <p>4 学級経営とPBIS(肯定的な行動介入と支援)</p> <p>5 PBIS のポイント</p> <p>①価値を明確にする。</p> <p>②価値に基づいた行動を具体化する。</p> <p>③良い行動が生起する具体的な仕掛けや場を考える。</p> <p>④即時に強化する。</p> <p>6 演習・・・場面や内容ごとに目標の明確化と評価</p>
成果/活用策	<p>○望ましくない行動を繰り返す子どもの3パターンのお話はとても納得しました。そういった子ども達に叱らずに望ましい行動をさせるための手立てをととても具体的に明示して頂いたので、それらを活用していきたいです。</p> <p>○価値を明確化して具体的な行動を子ども達に考えさせる方法、チェックイン、チェックアウトなどは本校児童でも使えそうだと感じました。</p> <p>○今まで「個での指導」が良いと思っていたのと、マイナスな行動を指導しがちだったと思います。プラスの行動を強化させるような声かけや工夫をしたいと思います。</p> <p>○PBIS のポイント(良い行動を強化して習慣化していく)について、具体的に知れたこと。実践で落とし込んでいきたい。</p> <p>○校内研でやった応用行動分析と関連があるのが、一貫性があったととてもよかった。</p> <p>○統計データがとても分かりやすく、今後活かせると思う。</p> <p>○本校の学校教育目標をより分かりやすく、より実行しやすく、具現化していこうと思いました。価値を明確に、という視点で見つめ直します。</p> <p>○今まで「望ましくない行動」に対しての対応ばかりに目を向けがちでしたが、「望ましい行動」を教え、「伝える」という指導はすぐに取り組めるものだと思います。</p> <p>○価値から行動を考えることを学びました。学級目標を決めて、どんな行動が望ましいか、児童に示していなかった。今後、取り組んでいきたい。</p> <p>○具体的な実践例が示されているためイメージしやすく、学級、学年で取り組む工夫ができそうである。あまり反応してくれない子への対応を振り返って分析していきたい。</p>
感想/要望	<p>○今までの指導とは別のやり方を学ぶことができました。</p> <p>○県外の講師とも、このような形で研修ができることは非常に良いことと感じました。</p> <p>○初めての ZOOM による研修でしたが、思っていた以上に普通の集合研修と変わらなくてとても良かったです。コロナと離島ということもあり、今後もオンライン研修に積極的に参加できると良いなと思います。</p> <p>○不登校、いじめ、校内暴力などの件数が 10 年単位でとても増えてきていることに驚いた。子ども達がおかしくなっている、家庭も困っている、貧困が関係しているなど、学校や教師の力だけでは解決できないことも多くなっているように感じたので、専門機関や外部機関など一緒に協力できる場所が増えたらいいなと感じた。</p>



研修名	道徳教育講演会「おもしろく、深い道徳の授業づくり」
日時	2020年9月18日(金) 15:30~17:00 参加者50人
研修の目的	道徳教育の授業づくりに関して、小さな道徳を日頃の学級経営に活用することによって道徳教育の授業力を高める。
テーマ	「おもしろく深い道徳の授業づくり」
講師名	鈴木健二（愛知教育大学教授）
会場・場所	北部教育研修センター及び各学校（Zoomによるオンライン研修会）
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳授業づくりの基礎・基本 2 おもしろく・深い道徳授業とは 3 小さな道徳授業とは 4 身近な素材に気づく視点（本、チラシ、テレビ、機内誌、新聞記事、・・・） 5 授業づくりアイデアシートの活用 6 教材への興味－構成要素に着目－思考を刺激する発問－身近な問題としての意識付け
成果／活用策	<p>○小さな道徳授業の site をぜひ活用してみたい。</p> <p>○小さな道徳授業はすぐに実践して活かせる。見方や考え方を多面的に子どもに求める前に自らそうする努力、基礎基本を大切に作る気構え、発問を考える、考えたい授業、提示の仕方にも工夫、自分事にする、思わず考える、何より楽しい。教材研究今日からすぐやるぞ！！</p> <p>○身近な問題として意識づける（行動や言葉に影響を及ぼしているか？）⇒認識の変容を促す、ベスト3を提示⇒意識の持続を図る（行動の指針）、少しの教材の工夫で「おもしろく深い授業」になる。そのことを意識して実践していきたい。</p> <p>○オンラインではあったが、具体的に作業をしながら講座が進んでいったので、理解しやすかった。ミニ道徳や1時間の道徳授業づくりに関して、新たな視点を獲得することができた。挿絵を使った導入など、本文に入る前に生徒を惹きつける工夫、教科書会社の「ねらい」を読む前に教科書を読み込む手順など、授業づくりの参考になる実践的な内容が多く勉強になった。</p> <p>○今年度のコロナの影響で、研究校（道徳）がなくなったのは残念です。先生方は、熱量落ちず、ローテーション授業、TT 授業に取り組んでいる。次年度に向け、本校の取り組みの大きなヒントを得ました。</p>
感想／要望	<p>○子どもが考えたい発問（思わず考えこむ、考えが対立、多様な考えが浮かぶ）。教材の提示の仕方、発問の工夫の基礎・基本をおさえて実践できるようにしたい。今後の授業に活かしていきます。今日は本当にありがとうございました。</p> <p>○指導案も見ないで、教材に向き合ってみようと思いました。そして、教材に興味をもたせ、思考を刺激する発問をし、身近な問題として意識づけられるように今後頑張りたいと思います。</p> <p>○授業の導入方法が新しく、ぜひ試してみたいと思った。これまでの自分の授業が、どれほどレベルの低いものだったのかを痛感した。</p> <p>○簡単そうに見えたドッジボール対決の文がとても深く面白いものでありました。</p> <p>○「気持ちを考えさせる必要はない」という言葉が印象に残りました。思考を刺激する発問を作るのはとても時間がかかりそうですが、頑張ってみます。</p> <p>○生徒に「考えさせる」ということのポイントが掴めました。今まで要領が掴めず悩んでいましたが解決できそうです。ありがとうございました。</p> <p>○その教材ならではの「ねらい」を設定することの大切さを痛感しました。一から「ねらい」を設定することで、その教材を深く読み込んだり、興味を持たせるアイデアにつながったり、思考を刺激する発問につながったりと、一つの授業に教師自身が深く学ぶことにつながるんだと実際に授業づくりをして感じました。</p> <p>○「学級経営につなげる」という視点がとても参考になりました。</p>



研修名	「小学校算数遠隔授業【Zoomによるオンライン研修】」
日時	2020年9月24日(木) 14:00~17:00 参加者28人
研修の目的	今年度から実施された新学習指導要領に基づく算数の授業の在り方について示範授業を参観することによって理解する。併せて算数の授業のポイントを講読していただき、今後の授業の改善に役立てる。
テーマ	「発展的に考える算数の授業～4年「変わり方」の授業を通して～」示範授業と講話
講師名	佐藤学（秋田大学教育文化学部 教授）
会場・場所	本部町立本部小学校（Zoomによるオンライン授業）
研修内容	<p>1 算数遠隔授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元「変わり方」 ・児童：本部小学校4年3組 ・授業者：佐藤学（秋田大学教授） <p>2 授業研修会</p> <p>(1) 本時のねらい・工夫について</p> <p>(2) 講話</p> <p>(3) 質疑応答</p>
成果／活用策	<p>○パワーポイントで黒板を代替にししたり、ITC機器を活用して遠隔授業を行っていることに大変驚いたが、自分も有効活用したいと強く思った。時代の流れに合わせることでできる教員でありたい。</p> <p>○発問の仕方や子ども達が学びたいというような発問が学べた。</p> <p>○小グループでZoomを活用し、全体で共有したりする事が可能だと感じました。</p> <p>○発展的にということを念頭に授業づくりを行っていかうと思います。</p> <p>○オンラインでの授業を行うには、自身のIT技術ではなかなか難しいと思うが、今後のために学びたいと感じた。</p> <p>○あまり参観することができなかったが、検討会で得た「気づき」はこれからの授業に生かしていきたいと思った。</p> <p>○新しい授業形態のあり方を学べた。</p> <p>○子ども達の「気づき」を大事にしながから授業を進めていく。</p> <p>○遠隔で行うため、子どもが授業に参加し続ける工夫をいくつか学んだ。（発問の仕方、板書の工夫など。）</p>
感想／要望	<p>○黒板ではなく、パソコンで入力していくのできれいに整理していたので良かった。</p> <p>○遠隔でもやりとりができることはすごいなと思いました。</p> <p>○教室でのオンライン授業をどのように行っているのか確認することができた。</p> <p>○子ども達の思考のさせ方や気づきへの声かけの仕方など、とても勉強になりました。矢印や表、色分けなどがスムーズでとても見やすい板書になっていた。</p> <p>○児童は初めての体験に目を輝かせていた。その輝きを活かせるような内容と取り組みになれば良いと感じた。</p> <p>○オンラインで行なうことはできるが、準備する事が多いと思った。また、カメラを向けていない死角ではどのようにすればよいのかと疑問に思った。</p> <p>○Zoomによる授業でも子ども達が学び合う姿が見れたことは良かった。</p> <p>○オンラインで子どもとのやりとりをどうするのか気になっていたが、とてもスムーズに行えていてとても分かりやすく楽しい授業だった。</p> <p>○オンライン授業でも対面の授業のように対話をしながら進めることが大切だと感じました。また、児童の活動の時間をしっかりと確保することや児童のペースによって進度を調整することも大切だと感じました。</p> <p>○パワーポイントを使ってスムーズに授業が行っていたことに驚いた。</p> <p>○今回、コロナ禍の中でとても衝撃的でした。環境を整えていくには試行が必要だと感じました。機器の活用に励みたいです。</p> <p>○オンライン授業することで、担任が机間を巡回して子どもの実態を見ることができるので良かった。</p> <p>○子ども達の表情や授業の様子が見られるととても良かったかなと思います。</p>



研修名	スーパーティーチャー教育講演会「評価に関する研修会」
日時	2020年11月9日(月) 15:00~17:00 参加者186人
研修の目的	新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の中から深い学びに焦点を当て、資質・能力を育成する指導と評価の一体化を図る。
テーマ	深い学びの視点からの授業改善 ～資質・能力を育成する指導と評価の一体化を目指して～
講師名	樺山敏郎（大妻女子大学准教授）
会場・場所	北部生涯学習推進センター（研修室）
研修内容	1.深い学びの視点からの授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びとは？ 学術的知見 ・言葉の探求に挑むために学びの文脈をつくる事ができる教師の指導力・授業力を磨き続ける。 ・ユニバーサルデザインの視点 ・見通し＝目標＋内容＋方法 2.学習評価の基本的な考え方と事例 <ul style="list-style-type: none"> ・学習評価の現状における課題 ・学習評価の改善の基本方針 ・指導と評価の一体化を図るとは？
成果／活用策	<p>○ふり返し5分は確実に取る。確認ができました。普段から書くということ意識した取り組みが必要だと感じた。みんな(先生方)と話し合っ取り組んでいきたい。</p> <p>○メタ認知の促しと振り返りの充実、教師の子どもへの働きかけ(発問・指導)。①②③の子ども達への働きかけ方に気をつけてやっていきたい。まとめとふり返し、教師のルーティンとしてその時間を獲得し、どう書かせるかをしっかりやっていきたい。</p> <p>○メタ認知の促しと振り返り。まとめ・ふり返りの時間確保が大事だと再認識しました。樺山先生の講話がオンラインで受けられて評価について良くわかりました。</p> <p>○評価についての文部科学省の考え方がよく分かる内容でした。</p> <p>○指導に生かす評価と記録に残す評価の説明が分かりやすく、イメージしやすかったです。3観点のもつ意義を踏まえた評価の考え方を具体的に解説されていたので、分かりやすかったです。ふり返りの大切さ、メタ認知の重要性が再確認できた。</p> <p>○評価について、再確認すると同時に理解を深めることができた。今年度の県の重点項目も評価・改善であるため、今後の研究授業等における指導助言のひとつとしてお話できるようにする。</p> <p>○職員と共有しながら次年度に向けて校内でもしっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>○指導と評価の一体化の意味や学習評価の基本的な考え方について、今後も研修を深め学校現場に還元していけるよう努力したい。</p> <p>○単元の最後だけではなく、途中(形成的評価)も行っていきたい。</p> <p>○「まとめ」として3Zを活用してみたいと思いました。</p> <p>○これからの評価のあり方について、ポイントを絞って進めていくことが大切だと感じた。3Zに積極的に取り組んでみたい。</p> <p>○単元計画を児童と共に立て、ゴールをイメージさせていくことの大切さや指導に生かす評価、記録に残す評価について詳しく知ることができ実践へとつなげていきたい。3Z(時間・字数・条件)を心がけ取り入れていきたい。</p> <p>○オンライということで、一方的受け身ではあったが、講話を聞き、資料を見ながら自分の頭の中で整理し考え、じっくり学ぶ理解につなげることができた。また、評価についても分かり易かったので、即活用(授業や成績処理)していきたい。</p>



研修名	「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)講演会」
日時	2020年11月16日(月) 15:15~17:00 参加者164人
研修の目的	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)講演会を実施し、学校現場から見た制度の仕組みや有効性、先進事例を学び、コミュニティ・スクール推進の機運を醸成する。
テーマ	「未来の学校づくり」～地域に開かれた学校から地域とともにある学校へ～
講師名	木村直人(前文部科学省 初等中等局参事官/大臣官房会計課長)
会場・場所	Zoomによるオンライン研修
研修内容	<p>1.学校は何のため、誰のためにあるの？</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が生きる未来→グローバル化、情報化等により変化が激しく予測困難な未来 我が国の学校現場を取り巻く課題は複雑化・困難化している。 <p>2.まちづくりとともにある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ目的のために対等の立場で協力して共に働くこと 学校と地域に「貸し借り」の関係はありますか？ 学校評価も基本は自己評価→評価する、されるの関係でなく関係でなく(自分たちの主体的な動きに目を向ける。) <p>3.地域よし、学校よし、子どもよしで未来よし</p> <ul style="list-style-type: none"> 人は人を浴びて人になる。 社会の変化に対応するために「学校教育」も変わらなければならない。 開かれた教育課程 ・地域とともにある学校への転換
成果/活用策	<p>○地域と学校が貸し借りの関係にならないように、未来への目標をしっかりと共有することが大切である。また、イベントだけに参加せず計画の段階から参加することも重要であることを知った。</p> <p>○CS導入の業務多忙化への懸念に対し、課題を共有し、双方向で話し合い、解決策を探ることにより結果的に業務改善につながる事がわかった。</p> <p>○CS評価は「当事者意識」を持つことが重要で、基本は「自己評価」をすることが重要であること。学校評価をするにあたり「自己評価」をすることが重要である。例えば、問いの文言でも学校内(職員同士)では同僚性がありますか？ではなく、あなたは同僚性を意識していますか？にするなど、今後はメタ認知を意識していきたいと思った。</p> <p>○社会情勢からCSの必要性、これからの教育課程の理念など具体的に学ぶことができた。学校評価の事例、協議のポイントが参考になった。</p> <p>○学校と地域の目指すべきパートナーとしての連携、協働関係の姿を再確認することができた。</p> <p>○子ども達に育成したい資源・能力を互いに共有し、学校の教育課程の中でどのように地域の「ひと・もの」を活用していくか理解を深めたい。</p> <p>○「思い」を共有できるようにすることを改めて認識することができました。</p> <p>○今回の研修でとても印象に残ったことは、「開かれた学校」についてである。これまで学校からいろいろな情報を発信していれば良いと思っていたが、「学校内に閉じずに目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる」ことが大切だと聞いて、これまでの考えを改めなければいけないと感じた。</p> <p>○魅力あるまちづくりについて、家庭、学校、地域での創造発見が今後の学校改革には必要だということを改めて強く感じました。</p> <p>○30年後を考える。先を見つめた時、日本は、沖縄は、名護市は、を人任せではなく、自分事として考えなくてはならない。大好きな子ども達の未来のためにあるべきCSの形を実用化していかななくてはならない。引き続き委員会で分かりやすく推進していきたい。</p>



研修名	「特別支援教育研修会」
日時	2020年11月21日(土) 10:00~12:00 参加者 45人
研修の目的	特別支援教育で通常学級にいる気になる子どもの関わり方に焦点を当て、その子ども達を輝かせる学級経営のポイントや授業改善のヒントについて研修を深める。
テーマ	発達につまづきのある子どもを輝かせる学級経営と授業改善 ～通常学級で気になる子どもへの関わり方～ Part2
講師名	川上康則（東京都立矢口特別支援学校主任教諭）
会場・場所	Zoomによるオンライン研修
研修内容	<p>1.関わりの糸口を見いだすのが難しい子への関わり方・指導のポイント</p> <p>2.ワンランク上の子ども理解と関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甘くか、厳しくか、許すか、譲らないかという二項対立に陥らない。 ・子どもの幸せスイッチを押そう。 ・子どもの平等にみてほしいという気持ちを忘れない! ・当事者視点を忘れずに・・・ ・二次障害に至るプロセスを知り、将来を支えよう。 ・二次障害は身近で目立たないまま進む ・援助要求スキルを教えることで問題行動を減らす。 ・安心して解らないと言えるクラスをつくろう。 ・編集日々の感謝を大切に! ・ルールに従わせるより「信頼」を大切にしよう。 ・子ども達の安全基地でいよう。 ・「やり方」を求める前に「在り方」を見直そう。
成果／活用策	<p>○子どもにも「トライ&エラー」を保証するという点で、失敗や下手なことも楽しめる空気をつくれるようにしたいと思いました。そして大人の側も期待値を下げ、心に余裕をもっていくことを心掛けたいと感じました。</p> <p>○特別支援学級の担任をしていますが、いつも「これでいいのかな、どんな対応をしたら良いのか」と自問自答したり、手探りの状態で過ごしたりしていました。色々な行動パターンの児童やその対応策を具体的に教えてもらい、火曜日から接し方や声かけの仕方を変えてみようと思いました。</p> <p>○「なぜ上手くいかないのか」よりも「どうして上手くいったか」を考えることが糸口になるというのは目からウロコで、早速生かしていきたい。</p> <p>○「自尊感情が高まる→援助を求めることができる」ということを肝に命じて、子ども達の援助要求スキルを高めるための支援、伝授に努めたい。</p> <p>○今回の講演会で得た活用策について、2項対立（認めて受け入れる⇔認めない・許さない）は、1～99の間で成長を見守りつつ支援に携わることを心掛けていきたいと感じました。</p> <p>○ネガティブ感情の語彙力の乏しさが、感情・行動力に表われることを知りました。生徒が伝えたい事が分からなかった場合は、確認しながら気持ちを汲み取り、言語化し、話をしていこうと思います。</p>
感想／要望	<p>○特別支援教育について学校全体に研修をしてほしいと感じました。</p> <p>○学習支援員という立場上、学力の低い生徒に接することが多いのですが、声掛けの仕方や内容について悩むことがありました。「先生はできているよ」、「だからやってみよう」と伝えたりもしますが、時には焦ったり、疲れてしまうこともあります。今回の研修で学んだ「変わる子にしか声を掛けません」、「一人一人の伸びしろをほめる」という言葉と「1～99の間で折り合いをつける」ことを取り入れて、声掛けの言葉を変えてみようと思います。</p> <p>○子どもの行動だけでなく、その裏にある背景や心をきちんと見取れる、理解してあげられるような大人になりたいと研修のあいだ中思っていました。</p> <p>○今回の研修も非常に参考になり、心がスーッと軽くなる研修でした。使命感から子どもにきつくなってしまうようにゼロと100の間で見守ることを実践していきたいと感じます。ぜひ来年も受けさせてください。</p>

研修名	スーパーティーチャー招聘事業「中学校英語科研修会」
日時	2020年12月21日(月) 14:00~16:00 参加者 28人
研修の目的	国頭地区の英語科教員の指導力の向上及び効果的な授業づくりについて講話や演習を通して新学習指導要領の理解を深めるとともに、年間指導計画作成のポイントを掴む。
テーマ	新学習指導要領に伴った授業づくりとテスト作成について
講師名	中嶋洋一（関西外国語大学教授）
会場・場所	各学校（Zoomによるオンライン研修）
研修内容	<p>1.大学のオンライン授業から・・・これからの時代はオンラインとオフラインの両方の授業が大切になる。</p> <p>2.Study（プロセス）と Learn（到達した姿）の違い・・・氷山モデルを例に ①最初のルール作りが大事 ②大事なのはゴールのイメージ ③プロ教師は起承転結の「結」の活動と「転」の揺さぶりの部分を大事にする。 ④積み木型の授業からジグソーパズル型の授業への転換 積み木型教師・・・授業進行案 ジグソーパズル型教師・・・学習指導案</p> <p>3.現行学習指導要領より今の指導をチェック ①英語の教科部会で Can-Do List を作成 ②文科省より中3のゴールが示され、それを読み解き、定期テストでそれに近づけた県・市が成果を上げた。 ③教科書で日常的にチャンクを意識させる。 ④新出単語をフラッシュカードだけでなく文脈でも説明する。</p> <p>4.学習指導要領は羅針盤・・・教科書だけでなく学習指導要領の活用 ※教科書だけでは、「知識・技能」しか見えてこない。学習指導要領には「思考力・判断力・表現力」を高めるための「ねらい・方策」が書かれている。それを理解すると「つきたい力」を意識した授業になる。</p>
成果／活用策	<p>○「書くことをしっかりと鍛えて話させる」ということがとても印象的でした。生徒の日記などを一人一人点検し、全員に正しく書かせるための努力はとても大変なものと感じましたが、できることからチャレンジしていきたいと思います。</p> <p>○指導要領をもとに教科書の題材を通して活動を工夫したい。また、身に付けたい力（～できる）を明らかにして、最終ゴールをイメージさせながら学習させる。</p> <p>○授業の構築の仕方について→プロ教師側（ジグソーパズル型）であること。</p> <p>○「定期テストはゴール。ゴールが正しい山ならば正しい力がついてくる」という言葉が印象的でした。全国学力調査の内容を再確認してテスト作りをしたい。</p> <p>○自分が普段どんな授業をしているのか客観的に知る事ができ、「これで良かったんだ」と確信できた部分と、「これは改善しなければ」と反省する部分が明確になって良かった。また、それを自身で発見する方法（学習指導要領を読み込み、教科年計や単元計画に日々の授業に反映させること）も分かったので、これを私自身の冬休みの課題とし、3学期から生かしていきたい。</p> <p>○子ども達の learn を目指す学習活動、指導の工夫改善をしたいです。</p>
感想／要望	<p>○新学習指導要領をよく読んで授業づくりをする大切さを学びました。</p> <p>○対面で行えたほうが一番良いとは思いますが、Zoomでの研修だったので移動を気にすることなく離島にとってはとても有難い実施でした。</p> <p>○新学習指導要領をよく読んで授業づくりをする大切さを学びました。</p> <p>○演習がなくなった分、講話が伸び結果的に良かったと思いました。現場の先生方に対する強いメッセージが多くあったように思います。</p> <p>○Can-Do リストの作成や年間計画の作成は個人ではなく、地区単位(せめて市町村単位)で取り組めないかと思う。それが地区全体の底上げに繋がっていくと思う。</p>



Ⅱ アクティブラーニング実践報告


研修名	「アクティブ・ラーニング実践報告会」
日時	2020年12月3日(木) 15:00~17:00 参加者16人
研修の目的	「主体的対話的で深い学び」の観点からの授業改善について実践的・革新的な取組を行っている若手教員の取り組みを紹介し、様々な授業改善の工夫を広く周知する。
テーマ	実践報告① 中学校数学科 教えて考えさせる授業実践 ～学びのスタンダード～
発表者名	中学校数学科 伊藝大輔（宜野座中学校教諭）
会場・場所	北部教育研修センター
研修内容	<p>実践報告① 中学校数学科 伊藝大輔先生（宜野座中学校教諭）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宜野座中学校学びのスタンダードの実践【教えて考えさせる授業】 <ul style="list-style-type: none"> ・つかむ・・・課題の意識化 【教師の説明】 ・見通す・・・課題解決に必要な情報の取り出し 【理解・確認】 ・考える・・・一人でじっくり考える。 ・深める・・・考えを「伝え」「くらべ」「深める」 【理解深化】 ・まとめる・・・学習の振り返り 【自己評価】 ・活かす
成果／活用策	<p>○教えて考えさせる授業の「教える」と「困難度査定」が導入校でカギを握っているという市川教授の言葉を思い出し、改めて考えさせられる実践でした。小学校でも児童の実態に応じて実践していきたいと思います。</p> <p>○生徒の主体性を意識した授業づくり、大変参考になりました。目先を生徒に置いた授業づくりを行っていききたい。</p> <p>○一次関数のグラフから多角形へと繋いだり、図形の線分を直線に見てグラフの式を求めたりなど、あまり実践したことがなかった。興味関心も高まりいい深化になると思う。</p> <p>○興味深かったのは問いサポにもありますが、コンパクトでインパクトのある導入という所と理解の深化の部分です。つつい簡単に済ませてしまう導入部分を自分の授業でも、もっと意識して導入部分の課題設定や解決方法、活用方法、それらを促す発問について作成していこうという気持ちになりました。</p> <p>○時間はかかるが動画を作成し、苦手な生徒のサポートツールがあるのはとてもいいなと思いました。取り入れてみたいと思います。</p>
感想／要望	<p>○頑張っている先生達の発表をする場がこのようなであると沢山の共有や先生同士のつながりも増え、とても良いと思いました。</p> <p>○他教科の実践から学ぶことが多かった。自分の勤めている学校の取り組みの良さが実感できた。生徒の授業中の笑顔が最高でした。</p> <p>○如何にしゃべりすぎないか、そのための方法は「単元を見通して教える内容を見ることが大切」。意見交換できる場があり良かったです。</p> <p>○教える段階で教師がしゃべることを減らす→教えるべきことを精選する必要があると感じました。</p> <p>○何を教え、何を考えさせるか、単元、節によってその基準を授業で見ることは大変そうですが、ぜひ実践したいと思いました。もっと勉強したいと思った。</p> <p>○変域のある一次関数のグラフの必要性を生徒に感じさせるところがいいなと思った。動画を利用した授業の具体例がとても良かった。実践していきたい。</p> <p>○ICTを活用した授業が面白そうでした。他にどんな活用の仕方があるか知りたいし、私も考えていきたい。</p> <p>○数学も英語も若い先生達が研究熱心で、日頃頑張っている姿に感動しました。中学校の先生方にもっと聞いてほしかったです。</p>



研修名	「アクティブ・ラーニング実践報告会」
日時	2020年12月3日(木) 15:00~17:00 参加者7人
研修の目的	「主体的対話的で深い学び」の観点からの授業改善について実践的・革新的な取組を行っている若手教員の取組を紹介し、様々な授業改善の工夫を広く周知する。
テーマ	実践報告② 小学校外国語活動 Fun Fan English 児童が主体的に学ぶ授業づくりと教材づくりの工夫
発表者名	小学校外国語活動 岸本瑞恵(屋部小学校 フロンティア・ティーチャー)
会場・場所	北部教育研修センター
研修内容	実践報告② 小学校外国語活動 ①外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験させる。 ・たくさん英語を聞かせる。 ・友達との関わり ・工夫を凝らした場面設定 ②書く活動へのアプローチ……形遊び ・歌遊び ・音遊び ・言葉遊び ③コミュニケーション活動の工夫と教材づくり ・言葉のインプット ・クリスマスツリーの飾り付け ・成果物を作る。
成果／活用策	○紹介内容がすぐ実践できそうなものだったので、早速真似してみたい。ただその一方で、音楽やリズム音、素材などの収集に時間がかかるのも事実。 ○中学校での接続をより円滑に行っていきたいです。 ○小学校英語で、どう積み重ねていくのかとても勉強になりました。中学校で授業をつくる上で、これを基に色々工夫できるのではと感じました。 ○文字を覚えさせる時、形や音、名前など事前にたくさん練習させてから書かせること、文字の認識の弱い子どもにとってはとても有効だと感じた。 ○アルファベット指導について、中学校の先生方に伝えるのと同時に、私の授業(5・6年)でも Review しながら取り組みたいです。 ○視覚的感覚を働かせる教材の提示が大切だと感じた。 ○外国語を用いてコミュニケーションを図る。(能力の素地) 主体的活動を増やす。
感想／要望	○ICT を活用している。キーボードで操作することで時短、発音の違いと練習、児童がすぐに練習しそうです。 ○どちら子ども達が生きていた表情や声、態度で授業に臨んでいる姿を見せてもらうことができました。 ○子ども達を楽しませるアイデアがすごいと思いました。どうやったら子どもが楽しめるか、頭に残るか、私もこれからもっと考えていきたいです。 ○小学校の英語教育がここまで進化しているのに驚きました。特別支援学級でも活用できそうな内容で参考になりました。 ○先生方はよく勉強しているなと感じます。その理論を目の前の子どもの実態に合わせて実践しているのが素晴らしいです。 ○タブレットに説明動画を入れて活用することはやってみたいと思いました。あるもの(教材)を上手く活用することで、新たな教材作りよりも効率よく指導を行えるように感じました。 ○小学生が中学生に上がった時に土台となるものが動機と関わりがあることが分かり、小学校における英語教育で大切だと感じた。 ○子ども達を楽しめる活動、アイデアが素晴らしいです。毎単元で教えてほしい。 ○今後もこのような実践事例の研修会があると良いと思います。 ○瑞恵先生のアクティブ・ラーニング実践の紹介をまた研修させていただきたいです。 ○色々な先生方の実践報告会で、どういふ変容があったかもっとたくさん知りたいです。 ○今年度は、コロナで動きにくかったのですが、考えると普段もそこで研修した映像を自由に見られるアーカイブ型でできると空いた時間で多くの教員が見れるのではないかと？

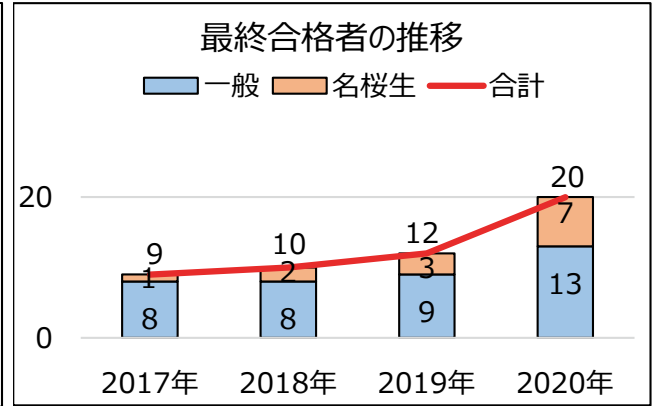
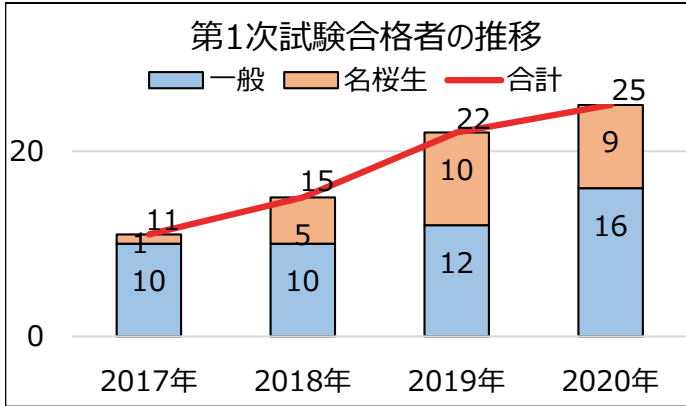


Ⅲ 教科研修

研修名	「北部地区中学校国語科研修会」	
日時	2020年11月4日(水) 15:00~17:00 参加28人	
研修の目的	北部地区の中学校国語科教員の指導力の向上及び効果的な授業づくりについて講話を通して理解を深め、授業力の向上を図る。	
テーマ	新学習指導要領を踏まえた書くことの授業づくり ～「書く指導」と「書く活動」の違いについて～	
講師名	上江洲朝男（琉球大学教職センター准教授）	
会場・場所	北部生涯学習推進センター（研修室）	
研修内容	<p>1.子ども達に求められている力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見したり、解釈したり、分析して何が必要か。どうすれば良いのかを自ら考え、対話を通して解決に向かっていく生徒を育成する。 <p>2.学習指導要領改訂のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資質能力に基づく評価観点の整理 ・学習評価に指摘されている課題 ・学習評価の改善の基本的な方向性 <p>3.書くこととは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 題材を設定する力（相手、目的意識） 情報を収集して、内容を検討して、取捨選択する力 イ 構成を検討して決める力 ウ 伝わりやすくなるように決める力 エ 読み手の立場に立って文章を整える力 オ 感想や意見を伝え合う力 <p>4.単元構想と授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> Step1 単元で取り上げる指導事項の確 Step2 単元の目標と言語活動の設定 Step3 単元の評価規準の設定 Step4 単元の指導と評価計画の決定 Step5 評価の実際と手立ての想定 	
成果／活用策	 <p>○読むことの指導において、書く言語活動を評価することはできているか指導の際混合してしまっていることが多い。今日は指導ポイントや指導事項との関連が分かりやすくて良かった。</p> <p>○評価の仕方、授業づくりなど参考になった。交流をさせたい場合は疑問/違いがあるかを意識して指示をすること。新卒採用に求められている力や企業の入社試験問題なども生徒に提示しても面白いかなと思った。生徒に目的を持たせて「書くこと」に取り組ませる。（実際に作者に送るなど）</p> <p>○ぜひ明日から授業で取り組みたいことがたくさんありました。特に評価に関しては、見本例と基準ともにとても分かりやすかったです。頂いた指導案は本校でもやってみたいです。</p> <p>○指導・助言に大いに役立つ説明が分かりやすく、イメージしやすかったです。</p> <p>○新学習指導要領のポイントを抑えた指導案の作成について、再度、確認することができて良かった。</p>	
感想／要望	<p>○ブロック研で代表授業を行って、本研修に参加したのですが、できれば授業の前を上江洲先生の話の聞けるとなりました。</p> <p>○書くことの指導が社会生活とどう結びついているのか（入社試験）がよく分かる内容であった。</p> <p>○やっぱりこのような研修が必要だと思いました。コロナで殆どがオンライン研修となりとても残念なことも多い中での今日の研修は良かった。</p> <p>○後半（1月か2月）に鑑賞で「書くこと」をするので、今日の学びを是非使っていきたいと思います。また、1分スピーチもやってみようと思います。</p> <p>○今後は評価問題を先に作成して、それに向けた授業等を取り入れながら生徒の力が向上することを目指したい。</p>	

Ⅳ 教員養成講座実施報告

2020 年度実施 教員候補者選考試験の合格者数の推移



教員養成講座の開校式で、来年の試験を目指す受講生を前に体験談を語る本年度の合格者たち。5日、名桜大学・北部教育研修センター



【名護】北部地域の人材の育成と定着化を目指して、名桜大学の北部教育研修センターが実施している本年度後期の教員養成講座が5日、同センターで開講した。来年7月から始まる試験に向けて90人がスタートを切った。

北部地域の小中高校の元校

教職講座 90人が参加 名桜大研修センターに開講

長や教頭、指導主事らが講師となり、来年3月まで週2回の一般・教職教養の他、志望に応じた専門教養の講座がある。本年度までは内閣府の補助事業で、約1万2千円の受講料が免除されている。

開校式で高安美智子センター

「長は「残り8カ月余り、一日一日を大事に頑張っていきましょう。子どもたちの心を揺さぶるような教員を目指して、なぜ教員を志すのか、この志望動機を明確にすることから始めてほしい」などと呼び掛けた。

続いて本年度の4人の合格者が勉強方法やモチベーションの保ち方、面接対策などについてそれぞれ経験を伝えた。

本年度選考試験 20人合格 講座設置後 最多に

【北部】本年度の教員候補者選考試験で、名桜大学の北部教育研修センターが実施している教員養成講座の受講生から、開講後の4年間で最多となる20人が合格した。1次は59人中25人で合格率は42・4%。1次合格者に対する最終合格者の割合は80%だった。20人の内訳は名桜大生が7人、一般が13人となっている。

高安美智子センター長は「合格者20人という開講当初の目標が達成できたが、ただ教員数を増やすことが目的であってはない。変化の激しい時代、教員が学び続けていくことが必要」と話した。

最終合格者の推移は、講座が始まった2017年が9人、18年10人、19年12人だった。

同講座は、北部12市町村の教員志望者を対象に、人材の育成と北部地域への定着を目指して実施。19年2月から、内閣府の補助事業で北部教育研修センターが名桜大学内に設置され、教員養成講座とともに現役の教員研修を行っている。

(2020年11月10日 沖縄タイムスの記事より)

2020 年度後期教員養成講座
実施期間：2020 年 11 月 5 日(木)～2021 年 3 月 25 日(木)

分野別項目	受講者数	実施曜日	実施時間
①一般教養・教職教養講座	66 人	火・木	19:00～20:50
②専門教養講座	6 人 (①+② =50 人)	水・金・土	19:00～20:50
③入門編：基礎から学ぶ養成講座	3 人 (①+②+③=8 人)	金	14:45～16:15
合計	85 人 (現役生 44 人、名桜生 41 人)		

編集後記

当センターの内閣府の補助事業は、今年度で終了となります。3 学期はより多忙な業務が続きますが、3 月 25 日までの研修及び教員養成講座への参加をよろしくお願い致します。

【お問合せ先】 北部教育研修センター
TEL0980-51-1251 (担当 新城、大城)
メールアドレス atsu.shinjo@meio-u.ac.jp
sa.osiro@meio-u.ac.jp